

妻 が、 他人の 此 雌

になるまで。

ショートカット巨乳妻・佐々木美咲編

How my wife turned into someone else's bitch.
Busty wife with short hair

R18
成人指定
Adult Contents

みやるびっち







で、いけそう？

うーん……
やっぱり、また
美咲の体験談を
聞かせてもらった
方がいいかも……

またあ？



っ……
あ、ああ

ゴキ



何気ない妻の言葉に
じわり、と頭の奥が
熱くなる……



あなたの前に
付き合った人
二人しかいない
んだから――

同じ話しか
できないよ？

妻が誰かに
抱かれていた
ことを想像
すると――

きしっ

胸を
かきむしりたく
なると同時に
興奮する……

ええと……
前にも話したけど
初体験は――

一年上の
サッカー部の
先輩で……

フル

私の友達が
マネージャー
やってて……
その紹介で――

んっ

サッカー部……
やっぱり
運動部だ……

腰を動かす
妻の背後に、
隣人の姿を
思い浮かべる――

がっちりとした体格
キツイ目つき
きつと彼も、運動部
だったのだろう――

妻が他人に抱かれる
ところを想像すると
むやみに興奮
してしまう――



んっ……
硬くなってるね
今日はっ……
いけそうっ……♡

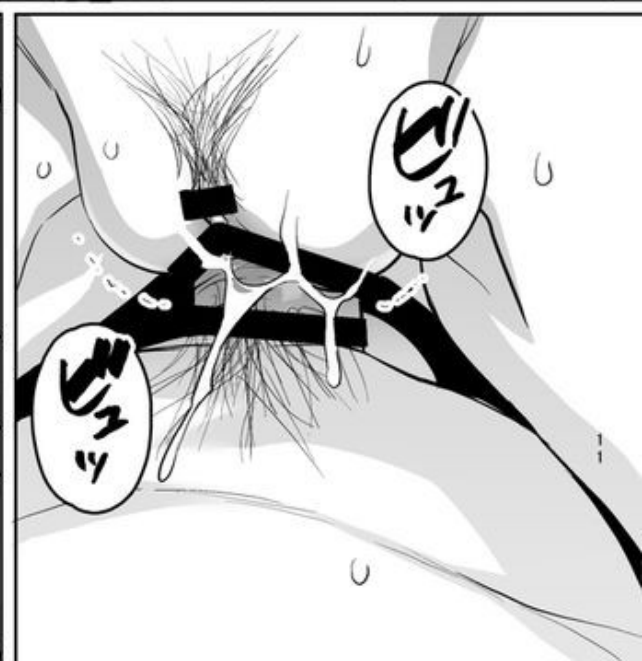
だから、子作りの為の
セックスの前に、
僕が興奮するように
協力してくれている

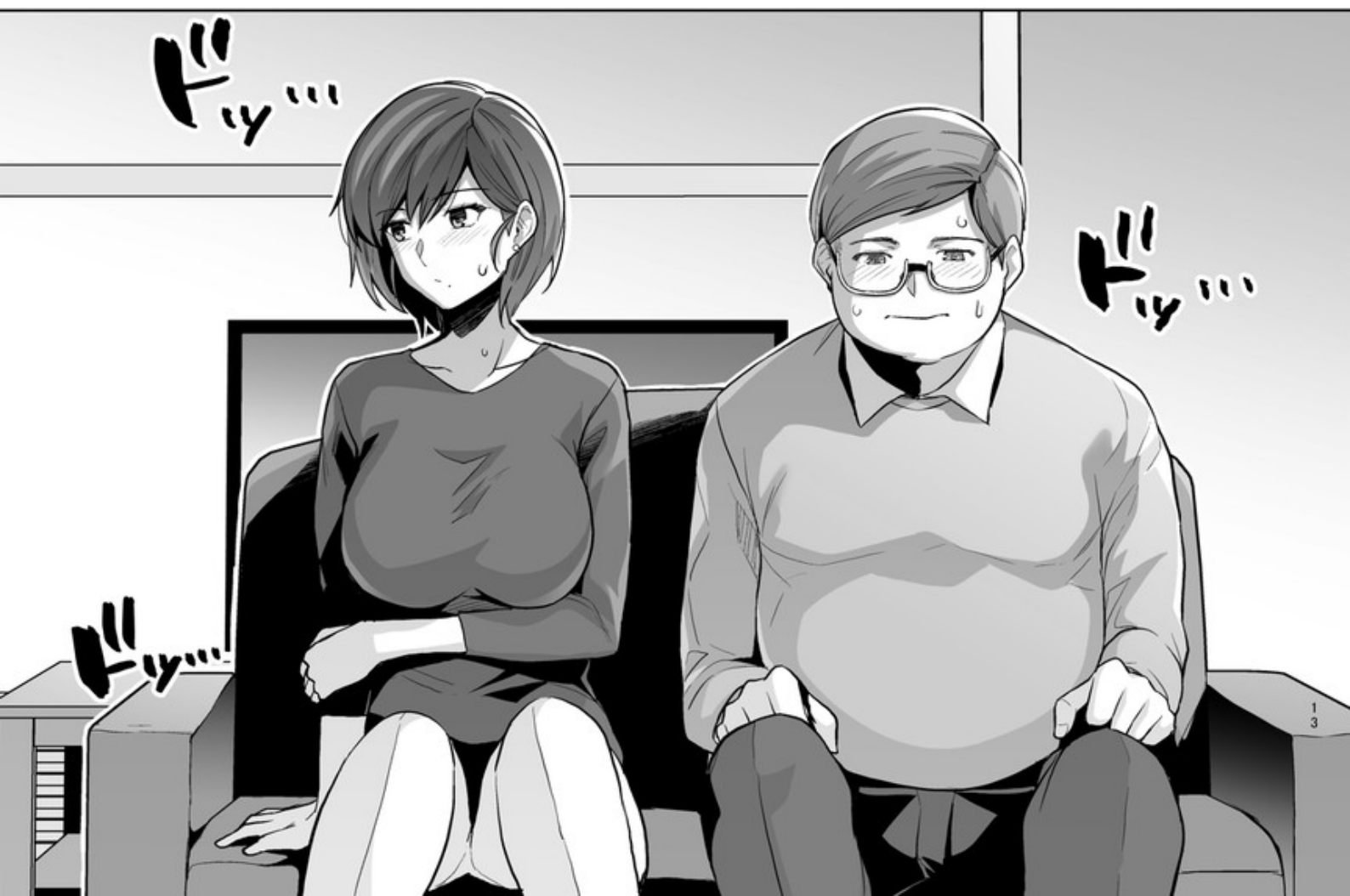


妻は、子供を
欲しがっている

自分のような男の
一体どこを妻は
好きになったのか……







すみません
夫が変なことを
言い出して……

あの、なぜこんなことを
するのか、って所から
俺には理解できなくて

こんなに美人の奥さんが
いるのに、なんで他の
男に抱かせようなんて
思うんですか？

この場合、俺が懸念
するのは、トラブルに
巻き込まれないか
なんです……
美人局とか

そつ、そういうの
じゃないです！
決して！！

……そういう性癖
だとしか言えません

嫉妬は……します。
でも、だからこそ
ものすごく興奮
するんです……！！

僕たちは今、子供を
作ろうとしています。
だから、妻も、僕が
興奮できるように
協力してくれてまして――

加治木さんには、
避妊してもらって……
その後、僕が妻と――
お、お願いできません
でしょうか！

嫉妬しない
んですか





まあ、子供欲しいって
ずっと言ってたのは
私だし――

あなたの難儀な
性癖にも
一回だけ
付き合うわよ



あーあ……
変な人を好きに
なっちゃった
なあ……

ドカ

……ごめん



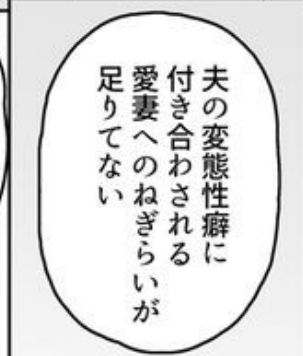
くっくく

や、約束する
本当に――

くっく



……うん



夫の変態性癖に
付き合わされる
愛妻へのねぎらいが
足りてない

ぶいぶい



ねえ……
帰ってきたら
いっぱい
愛してよね

フワッ

愛してるよ
もちろん……

その一言に、
胸を突かれたような
気持ちになる

そうだ、俺の奥さんは
今からあの男に
抱かれるんだ……

俺の苦手な、筋肉質の
運動部っぽい男に、
俺の大事な妻が――

くっ……
触ったらだめだ
触ったらきつと
射精してしまう



ドクン

妻が、帰ってきた後
セックスするんだ……
その時、存分に
膣出しするんだ……！

それで、子供が
できたら、それで
終わりだ

二度と、二度と
こんなことは
しないぞ……！

ドクン

ドクン



ま、まずは
シャワーを
浴びてから
だろうか……？



触るな……
触っちゃだめだ
美咲が帰ってくる
まで待つんだ……

もう二人は
ホテルに
着いた頃
だろうか……



い……いきなり
セックスはしない
よな……



妻は自分とのセックスでも必ず身体を洗ってからする

そうだ……
まずは少しの間
会話でもするん
じゃないか……？

ラブホテルに
着いていきなり
相手に身体を
触らせたりは
しないはずだ……！

キス——
キスはするん
だろうか……

きつと
美咲なら——

いや、でも——
キスは美咲が
拒否するん
じゃ……？

きよ、拒否
してほしい……

はっ……
トッ……

はっ……
トッ……

はっ……
トッ……

んっ

疲れ切った様子の
妻の姿――

だが、どこか
艶めかしい
ようにも感じる

さっきまで
他人の男に
抱かれていた

ど、どんなことを
されたのか
早く彼女の口から
聞きたい――!!

ドゥッ
ッ
ッ

ドゥッ
ッ
ッ

ドゥッ
ッ
ッ

悪いけど……
あたし動ける気が
しないから
自分で動いてね

すま……



ぬ……
脱がせるよ

うん

シャワーを浴びる
前の妻の服を
脱がすのも
はじめてかも
しれない……



あー……
そうだ

加治木さんが
「おみやげ」
だって

……
びっくり
しないね



キーン……



お……
「おみやげ」……？
どういう……？



これ見よがしに
妻の陰部に
残された
コンドーム……

は……

は……

妻がさつきまで
他の男に
抱かれていた
という事実が
突きつけられる



「ホテルに着くまで……
ずっと緊張してたの」

「本当にこんなことして
いいのかって——
今ならまだ引き返せる、
今ならまだ逃げ出せるって」

「心臓が高鳴って
怖かったの……」

「でも、気がついてたら
ホテルの部屋にいて
身体を触られてた」

「スカートをたくし上げて
自分からあの人に下着を
見せつけるようにしろって
言われて……」

「私、言われるままに
そうしたわ——」

「あなたも——
こんなに興奮
するんだ……」

はっ
はっ

はっ
はっ

「うん……嬉しい
あなたにこんなに
荒々しく求められて」

「ねえ、赤ちゃん——
できるよね？きつと
こんなにあなたが——」

「こんなにあなたが
私に欲情してくれる
なんて、いつ以来かな」

「あなたって……本当に
そう……なの？」

「こういうことでしか
興奮できないの？」

「ねえ……」

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

「また私が他人に
抱かれてほしいって—
思っているの……？」



答えられなかった……
脳内は嫉妬と興奮で
ぐちゃぐちゃで――

ただ、人生で一番
大量に射精したのは
間違いなかった……

自分の中で
何かが止まれない
ところに来た気が
していた――

翌日――
妻に、また隣人に
抱かれてほしい、
という話をした……

妻も、嫌だとは
言わなかった――

俺が会社に行ったあと、妻は隣の加治木の家に「出勤」する……

そこで、加治木の「妻」として一日を過ごすのだ

再度の寝取らせ提案に対しても、隣人である加治木の無表情は変わらなかった

だが——
「自分の家の中では自分の妻として扱う」というのが加治木の要求だった……

カ
キ
ャ……

会社に向かう
道すがら……
鼓動が大きくなる

自分は決定的に
間違ったことを
しているのでは
ないか……？

ドクン……

ドクン……

暗く、冷たいようで
奥に青い高温の炎が
燃えているような瞳

あの、隣人の
加治木の目――

いや、あくまでこれは
僕たち夫婦の間の
プレイなのだ

加治木は、
あの男は、そこに
参加するパーツに
すぎない……



妻は、俺が帰宅
する時間には――
必ず家に帰っていて
夕飯を作って
待っていてくれる。

そして、妻の口から
今日どんなことが
あったかを聞きながら
食事をするのだ……

加治木さんの仕事？
プログラマー
らしいわよ……

だからずっと
在宅でパソコン
使ってる

カジキだけに
漁師でもして
いるのかと

もど

もど

大学まで陸上部で
槍投げの選手
だったんだって

チームスポーツが
苦手な個人競技……
一匹狼、って
感じだものね

サッカー部
じゃなくて
残念だった？

べ、別にそれは
どうでも
いいけど……

……ねえ
このままで
いいの？

寝取らせのこと……
やめられるでしょ？
今なら——
「これで終わり」って
言えば、それまで

そりゃ、お隣さんとは
気まずいけど……
それ以上、手出し
したりはしないでしょ

な、
なにが？

ジキッ

や、やめ
たいの？

あなたが
喜ぶなら……
続けるわ

加治木さんとの
セックスは
気持ちいいし
ドキドキもするから

私は——
あなたのことを
愛しているし
あなたの子供が
欲しい……

だから、あなたが
興奮するのに
なんでも協力する

そう思って
これまで
やってきたわ……

でも——
私の気持ち
ずっと同じま
まか
なんて……
わからない
でしょ？

知らなかった
性感帯とか……
知らなかった
体位とか——

自分の身体が
どんどん開発
されていくのが
わかるの……

も……

そうやって身体が
変わっていったら
心も変わってしまう
んじゃないかって
……怖いのよ

ド……

ド……

ド……

翌日の夜――
キッチンには
ラップをかけた
料理だけがあり
妻の姿はなかった



本当に、
本当にこれで
いいのか――!?

ドクン...

ドクン...

ドクン...

自分は……
既に……

決定的な
間違いをして
いるのでは――

ドクン...

ドクン...

ドクン...

その夜
妻は――

あーん

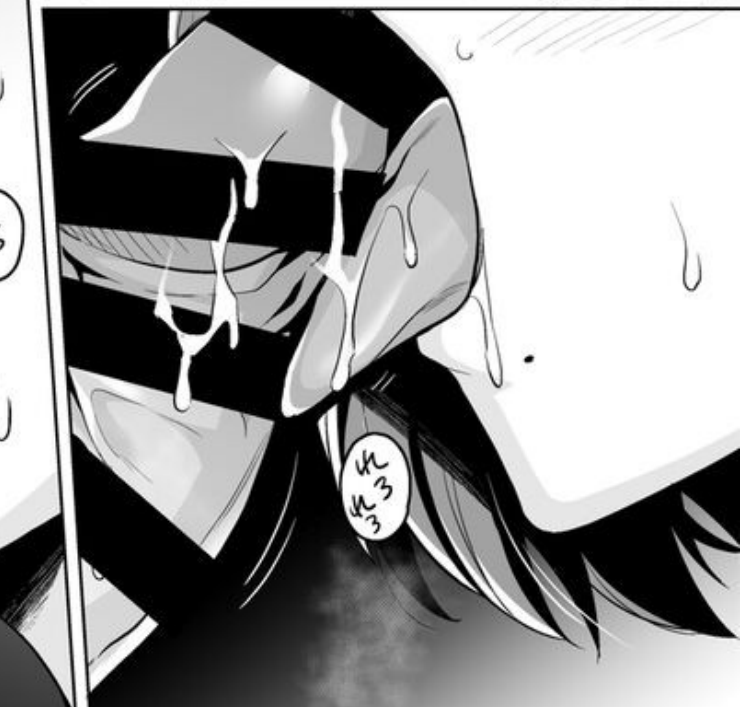
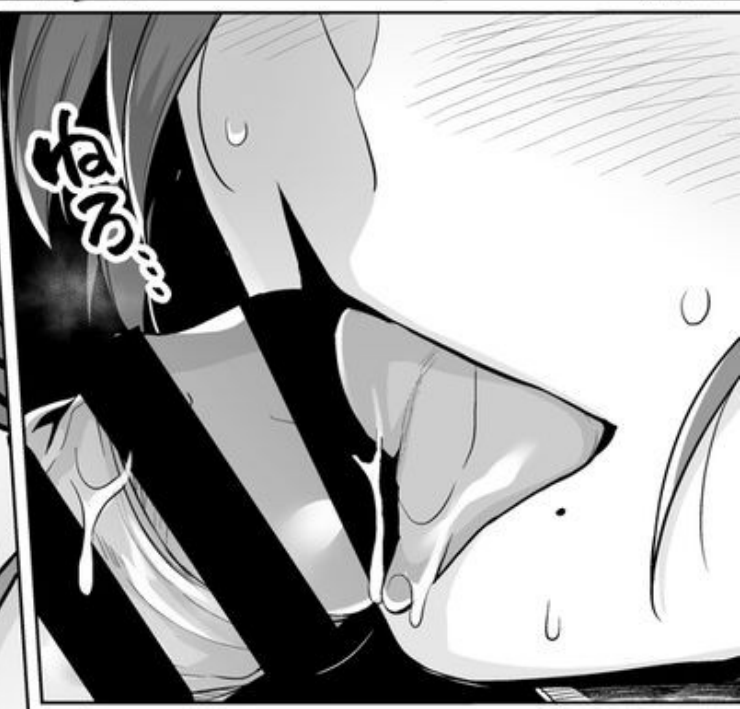
あーん

あーん

くちゅくちゅ
くちゅくちゅ
くちゅ



46







間取りは左右対称——
おそらくは、この壁の
向こうには隣人の家の
寝室がある……

妻のあえぎ声がかすかに聞こえる
気がするの
は幻聴だろうか？

壁の奥の暗闇で
今、妻が他人に
抱かれている——

今、どうなっ
て
いるんだ？
どうなって——

頭がぐらぐらする
触ってもいないのに
射精している——



あーあと……
あなたとのセックスも
禁止にされちゃった

でも……あなたは
その方が興奮する
ものね……？

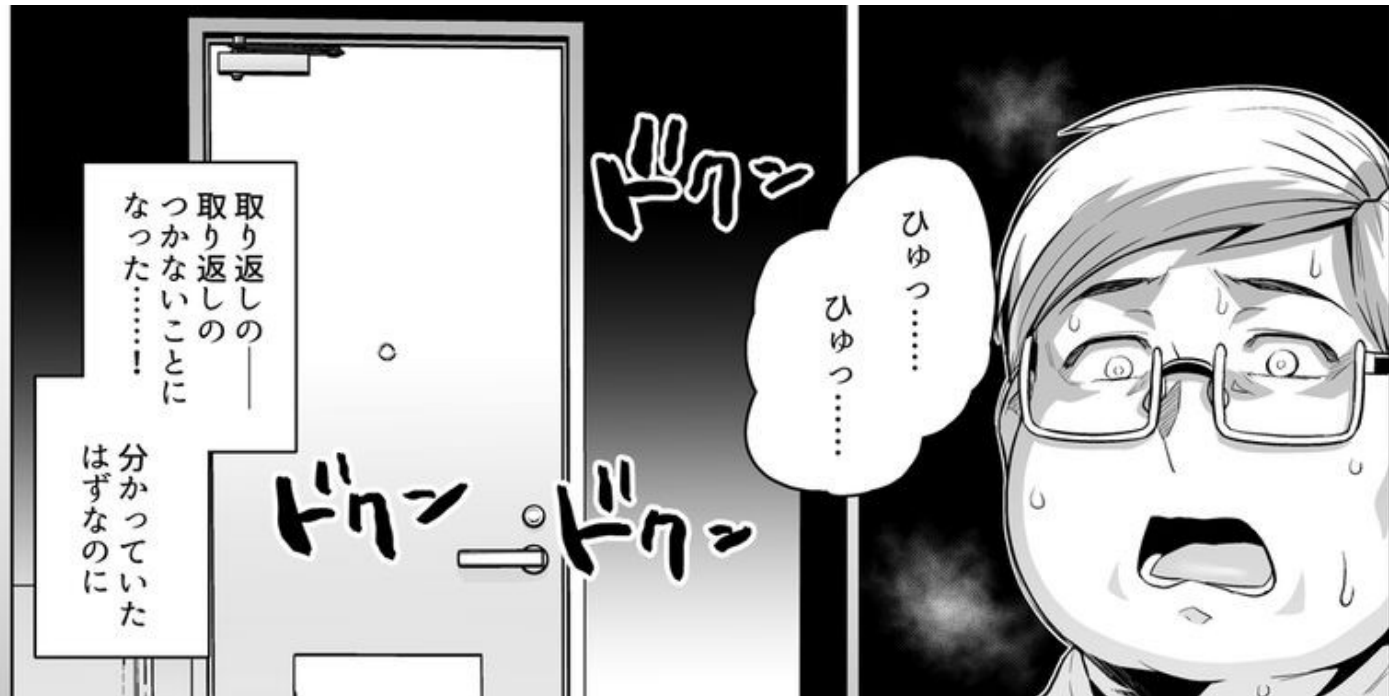
あ、大丈夫……
子供は
加治木さんと
作ってくるから

今日からもう
ゴムなしで
セックスするの

じゃあ
行ってきます
……あなた

おっ









一回だけです
今後美咲との
セックスを
見せるつもりは
ありませんから

あと、もう今日から
美咲は避妊しません
俺の子供を孕ませます

そちらとは二度と
セックスさせる
つもりはないので
そのつもりで

僕のっ……!!
僕の奥さんだぞ!
僕の妻なのに……!!

聞こえないので
何言ってるか
分かりませんが――



加治木さんが
言った通り……

これからは
加治木さんが
私のご主人様
になるの

そして——
この人の子供を
産むわ……

は……

は……

トッ……

トッ……

くちゅ

この人と一緒に
暮らして
この人に毎日
抱かれる

あなたとの子供
欲しかったけど
……でも、それは
私の願望で——

トロ……







はあっ……

はあ♡

はあっ……♡

はっ♡

はっ♡



違う
これは
違う

こんな妻の顔
見たことがない
知らない

こんな風に
男に媚びる
顔は……!!

今から
思いっきり
バックで

入れてもらう
からね……

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン



画面の向こう—
妻のあそこに
男のペニス
が突き立てられた
のがわかった

グンッ



乱暴な挿入にも
妻は甘い吐息を
漏らす……

気付けば僕は
自分でペニスを
擦りだしていた

ね……
あなたも
気持ちいい？

興奮してる？
今、自慰して
いるんでしょ？

ももも

シヨシヨ

はっ

はっ



声を弾ませ
報告してくる妻
……まだこれは
プレイなのか？
それとも――

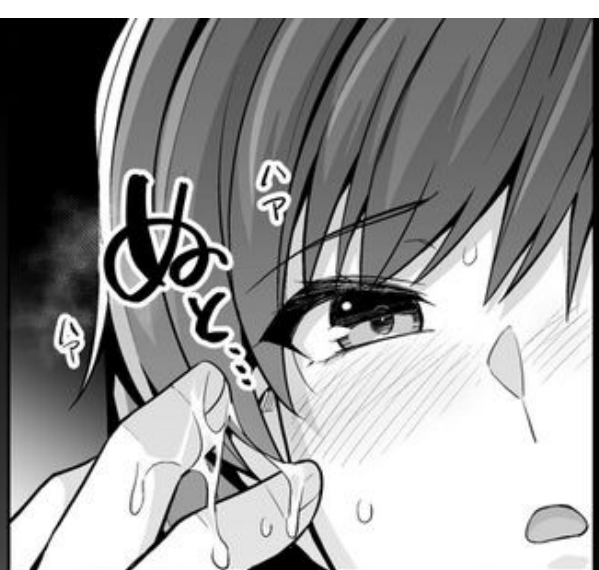
すごい
っ……♡

出され
ちやうよ
ねえっ♡
ねえっ……
あなたっ……

生で射精
っ……
私の膣内に♡













幸せっ……
私——
幸せだよっ……

こんなセックス♡
おまんこも
お尻も気持ちよく
してもらってっ

加治木さんの
女になるっ……

この人の雌に
なるからっ……

これからずっとっ
毎日犯して
もらえるのっ……

はっ
んっ

シゴいて
いるんでしょ

ねえあなた
見ているん
でしょっ……

自分の妻が他人に
抱かれる姿で
興奮して
いるんでしょ？

はっ

はっ

はっ

ん

はっ

いいよ……
もつと見て
いっぱいシコって

私はもう
戻れない
けど――

それがあなたの
選んだことだから
あなたの幸福だから

ううん、私たちが
選んだことだから
これでいいよね？

私も、もう――
何も考えずに
気持ちよくなつて
いいよね……？

ぽんっ

きっと今日……
赤ちゃんが
できる——

あなたとは……
あんなに頑張っても
授からなかったのに

少しだけ
寂しいね……

あなたとの
子供……
私は欲しかった

でも——
それでも——

あゝ

あゝ

あゝ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

そうして——
あっけなく
妻は妊娠した

は……

は……

自分とはずっと
子作りしても
妊娠しなかった
のに……

3...

間違いなく、それは
隣人の精子による
もので……

僕と妻の関係の
終焉をはっきりと
意味していた……





うん
判子も
大丈夫だね

ん……
ありがと



……ごめんね
あの人が
言い出した
ことなの……
子供も生まれる
ことだし、ちゃんと
離婚届を書かせた
方が良くって……

きっと不安なのね
彼、すごく
嫉妬深いタイプ
だから――



私は――
正直言うと……

離婚届とか
出す気はあまり
なかったの……



じゃあ、もう
この家に来るのは
最後になると思う
これまでみたいに
料理を届けるのも……
今の夫が、そういうの
嫉妬しちゃうから
できないんだ……

ちゃんと栄養
あるもの
食べてね
休みの日は
引きこもって
いないで
運動すること！

あとは……
最後にこれだけ
言わせて――

この家で、妻――
いや、「元」妻と
直に顔を合わせるのは
きつと最後だろう……

寝取らせAVは
一切見なくなった

そんなものでは
一切興奮
できなくなった……

この、妻との
体験に
比べたら——



毎夜——
妻は、今の夫と
セックスをしている

壁越しに、甘い
声がかすかに
聞こえてくる



美咲...
美咲...
美咲っ...!

別れ際の
彼女の一言は

きつと一生耳の奥に
こびりつき、僕の
脳を焼くことだろう



「他人の雌になっても……」

「私はあなたを愛しているから」

「さよなら、あなた——」

妻 他人の雌になるまで。
が、の ろいやるびっち
—ショートカット巨乳妻・佐々木美咲編—

妻
が、
他人の
此
雌

になるまで。







